



捕らえるためのものである網は、それで囲われた空間を強く意識させます。ハッと目を引く色・かたち。だけれども、おだやかで柔らかい作品。



アンティークを思わせる姿は、  
時間を経たかのような普遍的な美しさ。

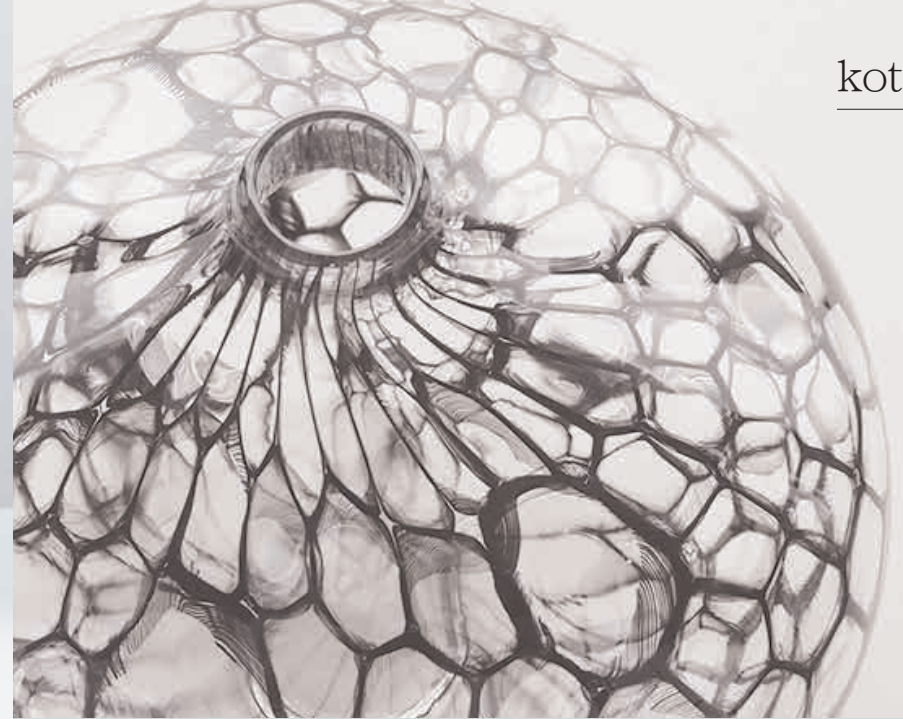


生活の中に馴染む色。  
ブルーグレーの「スミ」、  
ブラウンの「アンバー」

吹いた時の勢いを大切に、  
あえて不揃いなかたちのクリアな  
定番のワイングラス。



# 有永浩太 ガラス展



2020 9月11日(金) - 12月24日(木)

月火定休 祝日の場合は営業(翌日振替休) 詳しくはHPにて

ベネチアンガラスの伝統的な技法を取り入れながら、独自の世界を表現するガラス作家  
有永浩太さんの作品をご紹介します。  
ガラスは一番、思い通りに  
ならないからおもしろい。

2年前、有永さんの工房にお訪ねしました。

どこまでも続く能登島の海と雄大な大自然を目の前に、ご家族と共に、のどかで心地よい暮らしをされている有永さんは、毎日、できる限り、同じ時間・同じタイミングで熟したガラスを膨らますのだそうです。

遠い歴史を経たアンティークを思わせるかのような表情、シックな色合い。

それは、それは、綺麗な宝石箱の中にいる気分：どんな場所にもすつと溶け込みながらも、オーラを放つガラス。そんな印象でした。

「無理の無い繰り返しから  
生まれるかたち」

それは、経験、技術、身体、心の状態から、作品に映し出されるのです。

刻々と紡がれる「時間」と、時を止めたような「一瞬」を併せ持つ深い表情を持った美しいガラスが能登島からやってきます。

有永浩太さんの作品は、3か月ほどの長い期間を設けて展示販売いたします。

帆足めぐみ

※ハンドメイド商品について 吹きガラスは、作家がひとつひとつ手作りしており、色や形に個体差があります。  
※追加オーダーは現在は受けておりません。現物のみの販売となります。